

おやつのじかん3 -ちょっとひとやすみ-

—どっち派ですか?—

NO. 90



みなさんはどっち派ですか? 何ごとも、やってみながら覚えていくタイプですか? それとも、見て聞いてじっくり確認してからやり始めるタイプですか? 私は、子どもの頃は、とにかくなんでもいじってみて、試行錯誤しながらゴールまでいくタイプでした。設計図を見ずにプラモデルを組み立てたり、説明書を読まないでいじり始めたり。なので失敗もたくさんあり、ずっと間違えて覚えていて、人知れず学び直したものもあります。いまだにその傾向は残っていますが、あれこれいじって偶然できても、何でできたのかわからず、もう一度やろうとするとできないものもあり、説明書に頼らざるを得ないことも多くなりました。最近の説明書は、絵でわかりやすく表しているモノが多いですね。とても助かります。

さて、子ども達の学び方にも、大きく2パターンあると思います。

まず、とりあえず手にして、いじってみて覚えようとするタイプの子がいます。とりあえず輪の中に入ってから“なんだか楽しい”を繰り返し経験していく中で、少しずつ覚えていく子達です。

やってみて難しければ、まわりの様子を見ながら、見様見真似で学び乗り越えていく子がいます。“だいたいこんなもんでいいか”と、程よく妥協してOKにする子もいます。“教えてもらい上手”な子もいます。でもその中に、上手いはずなのに早々に懲りてしまい、“これはダメ”と見切りをつけてしまう子もいます。渦中でお友達と上手く関われずに不本意な思いをしてしまい、お友達との関係が崩れてしまう子もいます。せっかくのチャレンジですから、ぜひとも成就してほしいですね。

まずは、大人と一緒に付いて見本を見せ、取るべき行動を言葉かけだけでなく具体的に伝えていきます。他で似たような場面を作って、最後まで上手にやりきる経験を重ねていく方法もあります。

一方、提示された物事を、とりあえず拒む子がいます。また、積極的に参加しない姿で表す子もいます。誰かがしている様子を見て“なるほどそういうことか”“こうなるんだな”と全体像をつかんでから、どうするか考える子達です。渦中に入ってしまうと、何が何だかわからなくなって、不安が先行してしまいます。背中を押されるのを拒むことも多いでしょう。「大丈夫だよ、やってみようよ」は裏目に出がちです。育ちに配慮が必要な子の場合、こっちのタイプのほうが多いかなと思います。

誘い方としては、一度輪から外れて、少し離れた安心できるところから、じっくり全体を見せていきます。高みの見物から始めるのです。興味がありそうなら、その場で同じ歌を歌ったり、使っているアイテムをこっちに持ってきて大人がやって見せたりして、臨場感をソフトに近づけていきます。回数を重ねる中で、子どもの表情を見ながら、時間をかけて、ゆっくり誘っていきます。

この2つのパターン、それぞれ特別なことではないと思います。程度の問題はありますが、誰にでもあてはまることではないでしょうか。その子らしさと育ちの課題とを、療育だから支援だからと混同しないように、常にその子と話し合っていきたいものです。そして、いちばん大事なこと、それは、“楽しかった体験”をしっかりと増やしていくことです。力をつけていく源ですからね。

時には子どもの動きを止めながら、時にはじっと待ちながら、その子の隣りに寄り添っていく。じれったいかもしれませんが、遠回りが近道なことだってあるんです。(R5. 11) K

